科目ナンバリング	U-LAS03 10001 SB48						
授業科目名<英訳>	外国文献研究（全・英）-E1 ：外国語学習を考える Readings in Humanities and Social Sciences (All Faculties, English)-E1 :Issues in Foreign Language Learning			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　中森　誉之		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	外国文献研究			使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月2	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

私は，大学英語教育の目的とは，母語を介在させずに瞬時に英語を理解（聞く・読む）して表出（話す・書く）することができる高速な外国語処理能力の定着と，自由に運用することができる（母語に近い）語彙・表現形式の獲得であると考えています。

[到達目標]

この授業では，言語，音声，コミュニケーション，認知システム（感覚運動器官），外国語文章の理解と表現，学習といった学生にとって必要な教養を，英語学習と併行しながら身につけていきます。表出すること（話す・書く）を射程に入れつつ，科学分野の学術書・英語論文の構成や特有な表現方法，思考法と提示法などを実践的に学習しながら体得していくことを目標とします。

[授業計画と内容]

・「一般学術目的の英語」としての位置づけ
この授業では，最新の言語習得理論研究の成果を取り入れながら，文脈や場面，状況の中での語彙・表現形式の定着を中心に据えた学習方法をとることにより，学術分野においてより的確で使用域の広い英語能力獲得に向けた学習を行います。

・教材の性質や主題
上述の英語力を培うために，学術書や英語論文を中心に用いながら授業を展開します。使用予定の教材では，世界的に貢献する研究者が，どのように思考して英語を処理して形にしていくのかを体感していきます。

・履修者が教室で行う作業
学術書や学術論文特有の論理展開と表現獲得に向けた学習。内容理解及び批判的思考の鍛錬。

第１回　諸連絡、授業概要説明、他
第２回～第１４回　教材を１章ずつ読み進める。２回程度英文エッセイ執筆を課す。
第１５回　英語論述試験
フィードバックを含め１５回の授業をおこなう

・宿題の性質と量
予習と復習。教材の熟読。

外国文献研究（全・英）-E1 ：外国語学習を考える(2)へ続く↓↓↓

外国文献研究（全・英）-E1 ：外国語学習を考える(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中および定期試験期間に実施する英文論述試験の成績に基づき，本学の評価基準で判定します。ある程度の分量の英文を書けることが期待されます。評価は，学術表現形式の定着度と，論証能力（説得性・論理性・明解性）に基づきます。これらの割合について等の詳細は授業中に受講者に説明します。試験を受けられなかった場合は，必ず代替課題を提出してください。代替課題の提出がない場合は，欠席分の点数は零点として計算して評定を出します。
学期末定期試験（筆記）40％　レポート試験　0％　平常点評価　60％

[教科書]

KULASIS授業資料ページにて配信予定。
　毎週使用する配信教材の該当章は、授業予定日の一週間前からクラシス授業資料ページに掲載され、授業日午後には削除して次週分に更新されていきます。著作権保護の観点から、厳格な掲載期限が設定されており、文書の編集や印刷等に対する保護もかけられていることをご承知おきください。掲載期限は一週間のみですので、毎週ダウンロードをお忘れなく。
　本学ではCALL教室が廃止されましたので、自分の電子機器に配信教材をダウンロードして持参の上、授業活動に臨むことになります。小さな画面の電子機器は、眼科学的な諸問題があるため、推奨しません。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示します。授業の詳細や，その他の資料・情報などは，KULASIS授業サポート授業資料ページに掲載しますので参照してください。

[その他（オフィスアワー等）]

　私の学生時代を含めて，英米の大学・大学院では，一週間に合計百冊百本の文献を読んだ上で，口頭発表やレポート作成を毎週行うことは当然の日常です。訳読式では全く対応ができません。国際的な舞台で，こうして教育を受けた人々と対等に論議しながら活躍していくためには，翻訳に代わる英文理解・表出技術が必要となってきます。従って，負荷が高い訳読法を基盤とした母語に絶えず依存する英語理解・表出の習慣から早期に脱却することを最重要課題として位置づけます。
　私は数少ない言語習得論の専門家で，国内外の様々な研究教育機関の方々と日々協働しています。長年にわたって国内外の理学・工学・生理学系の研究者・技術者たちとも，産官学共同研究や認知科学プロジェクトを重ね，学者として英語論文や英語書籍を毎年発表していますので，研究者としての基本的なアプローチを具体的に示していきます。皆さんには，自らの英語学習経験を客観的に内省し，次世代を担う知識人として，ぜひ建設的な見識を身につける機会として欲しいと思います。

　私の英語１で使用した教材群とは異なりますので，継続して履修可能です。ただし前期英語１のような日常点重視の評価ではなく，純粋に英語論述の出来映えで判定します。
　前期と後期は，異なる教材を用います。前期は音声学習，後期は文章レベルの理解と表現に関する学術書を扱います。
　外国語教育関係の進路を志望する方，外国語教育を経験・勘・思い付きではなく最新・最先端の学術的な視点から客観的に見つめ直したい方，塾や家庭教師で英語を教えている方，言語習得論を考究したい方，その他純粋に興味関心がある皆さんの受講を歓迎します。

外国文献研究（全・英）-E1 ：外国語学習を考える(3)へ続く↓↓↓

外国文献研究（全・英）-E1 ：外国語学習を考える(3)

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部